

# 所信表明

令和6年11月26日

富津市長 高橋 恭市



## 所信表明

去る9月29日に執行されました富津市長選挙におきまして、市民の皆さんからご信託を賜り、富津市長として引き続き、3期目の市政を担わせていただくことになりました。

改めて、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

本日、令和6年12月定例会の開催に際し、今後の市政運営に対する私の所信をお伝えします。

これまでの2期8年を振り返りますと、財政破綻報道に端を発する市の経営改革、未だ忘れることのない令和元年の台風災害への対応、これまでに例を見ない新型コロナウイルス感染拡大への対応など、たいへん厳しい社会、経済情勢の中で、行政経営の安定化、学校・教育施設や道路等のインフラ整備、市の独自施策を含む子育て支援施策の充実など、議員並びに市民の皆さんのご理解、ご協力のもと、市政を前へと進めてまいりました。

しかしながら、近年の頻発、激甚化する自然災害や、少子化、人口減少など市を取り巻く環境は厳しさを増しており、市の将来を見据えた施策に直ちに取り組んでいく必要があります。

そのような認識のもと、この4年間については、これまでの8年間の市政運営の経験をもとに、「富津市みらい構想」に掲げた市の10年後の将来像「誇りと愛着を持てるまち ふつつ」の実現に向け、8つのテーマを柱に市政運営を進めてまいります。

まず1点目は、『安全、安心なまち』であります。

地球温暖化の進行に伴い、自然災害が頻発、激甚化している中で、被害を最小限に抑えるため、市民の皆様と協働、連携のもと、地域防災力、災害対応力の強化を図る必要があります。

自主防災組織や消防団など地域防災の大きな柱となる組織の活動への支援を充実するとともに、災害時に孤立可能性が懸念される地区への支援体制強化や大地震等での住宅被害を最小限に抑えるための耐震住宅改修の推進など、災害対応力の強化に取り組んでまいります。

2点目は、『子育てしやすいまち』であります。

妊娠、出産、育児まで切れ目のない子育て支援体制の充実を図ってまいります。

誰もが安心して子育てができ、子育てを喜びや生きがいとして感じていただけるよう出産前後の母子や孤独な子育てととならないような支援体制を構築し、子育て世帯の更なる負担軽減を図るための経済的支援の充実にも取り組んでまいります。

3点目は、『次代を担う子供たちを育むまち』であります。

子供たちが安心して学校生活を送れるよう教育環境、教育施設整備を着実に進めていく中で、子どもたちが心身ともに健康で、郷土を知り、地域愛を育み、富津市の未来を託せる児童、生徒を育成するための各種施策を実施してまいります。

4点目は、『福祉の充実したまち』であります。

誰もが安心して暮らせる環境づくりと住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまちづくりを推進するため、医療、介護を必要とする方やその家族に対しての支援体制を構築し、高齢者の“楽しむ機会”の創出、障がいへの理解を深めるための教育プログラムの提供や、生活困窮者への自立支援など、多様な支え合いの理解や活動、行動を推進してまいります。

5点目は、『健幸に暮らせるまち』であります。

健康の「健」に幸福の「幸」と書いて「健幸」、市民の皆さんがそれぞれのライフステージにおいて健やかで、幸せに暮らせるまちを目指し、各種施策を実施します。

市民の皆さんの健康を守るための各種検診や健康教室の充実を図るとともに、地域のスポーツ団体への支援の強化など、市民の方の自発的な体力向上への取り組みについて後押ししてまいります。

また、君津中央病院大佐和分院は、地域にとって必要不可欠であるばかりでなく君津圏域全体の医療体制を支える大変重要な拠点病院であることから、建て替えを強く働きかけてまいります。

6点目は、『産業が元気なまち』であります。

市内には、地域の特性を活かした様々な産業があり、事業者が安心して事業を営める環境整備や産業の活性化へ向け、将来を支える新たな担い手を確保するための事業承継支援、市内で新たに起業する方への創業支援や企業誘致について、引き続き取り組んでまいります。

また、市の特産品などのPR、ブランド化、販路拡大を図り、来訪者の増加につながる拠点として、道の駅の設置を推進し、市の魅力や観光資源などを様々な媒体で広く情報発信を行うなど観光プロモーションの充実を図り、市内のさまざまな産業の活性化を支援してまいります。

7点目は、『快適で便利なまち』であります。

道路、橋梁などのインフラの整備、交通手段の確保は、市民の皆さんの利便性

向上のためには、必要不可欠であります。

市道整備を推進し、事業が開始された千種新田バイパスの早期完成を県に働きかけるとともに、市役所周辺などの道路インフラの充実を活かした有効な土地利用への誘導を推進してまいります。

公共交通空白地域については、地域の実情に合った持続可能な移動手段について、地域、行政が一体となり取り組んでまいります。

8点目は、『移住定住を支援するまち』であります。

富津市へ移住や定住を考える方々へ、相談窓口となる移住コンシェルジュや移住体験、空き家バンク制度利用者への支援の継続など、市の魅力発信や魅力の再確認を推進することにより、移住プロモーションの強化に取り組んでまいります。

以上、8点を述べさせていただきましたが、これらの施策を実現し、次世代の富津市へ確かなバトンを渡すために、行政経営の基盤となる計画的な財政運営と経営改革を継続しつつ、また、次代を担う子供たちのため、地域の発展と夢ある未来を切り開くため、“鋸山の日本遺産認定へ向けた取組”や“東京湾口道路建設実現”などのチャレンジにも、引き続き取り組んでまいります。

少子化と人口減少が進展する中で、限られた財源を効果的かつ最大限に活用しながら、「誇りと愛着を持てるまち ふつつ」を目指し、今後も、市のさまざまな課題に正面から向き合い、みらい構想の実現に向けた大切な4年間となることを肝に銘じ、全身全霊、真摯に取り組んでまいる所存でございますので、議員並びに市民の皆さんのより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、市長3期目にあたっての所信といたします。